

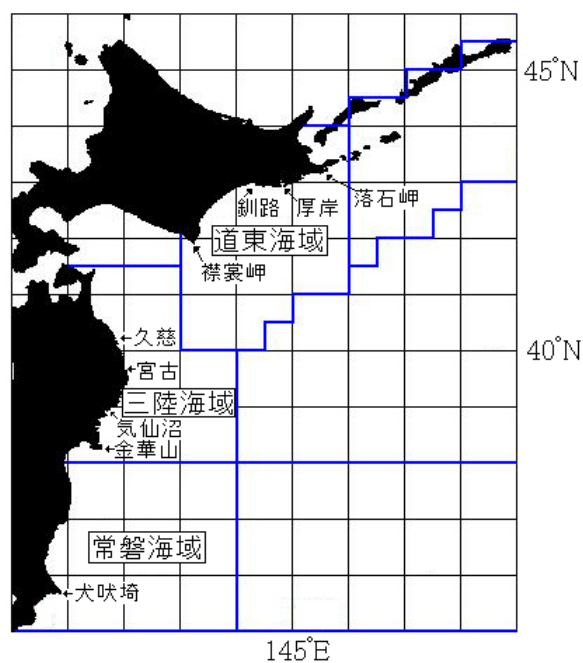
平成29年度 第3回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2017年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月上旬は中位水準となる。
- ・三陸海域では、10月上旬は低位水準であるが来遊がある。
- ・常磐海域では、10月下旬になると、来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

平成29年度 第3回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2017年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月上旬は中位水準となるが、魚群の多くは道東海域内の南側を通る。10月中旬から来遊量は減少して低位水準となり、10月下旬で終漁となる。

(2) 漁場

道東海域では、10月上旬～下旬は落石～襟裳沖が漁場となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月上旬～下旬は低位水準であるが増加する。11月上旬～中旬は低位水準で減少する。

(2) 漁場

10月上旬は、三陸北部に漁場ができる可能性がある。10月中旬は三陸北部～中部が、10月下旬は三陸北部～南部が、11月上旬～中旬は三陸南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月下旬になると、低位水準ではあるが来遊がある。11月上旬は低位水準であるが増加する。11月中旬から減少する。

(2) 漁場

10月下旬は、常磐北部に漁場ができる可能性がある。11月上旬は常磐北部が、11月中旬は常磐北部～南部が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	低位減少	低位減少		
	漁 場	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位増加	低位増加	低位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部～中部	北部～南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向			低位増加	低位増加	低位減少
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年を下回る低位水準であった。道東海域よりも東側の花咲港東沖における来遊量の水準は、前年を下回る低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域よりも東側における来遊量は、9月中旬の前半に増加し、その後減少した。

(2) 漁場

道東海域よりも東側の花咲港東沖が主漁場であり、道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域よりも東側の、花咲港東沖の花咲港まで2日程度かかる場所（14～16℃）と花咲港東300海里～東南東260海里付近（14～16℃）であった。

(3) 魚体

道東海域よりも北東側の、花咲港東沖では、体長29～30cmモードと26cmモードであった。体長28cm以下は2～4割程度であった。体長29cm以上の魚の体重は110～130g台が主体。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は10月下旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

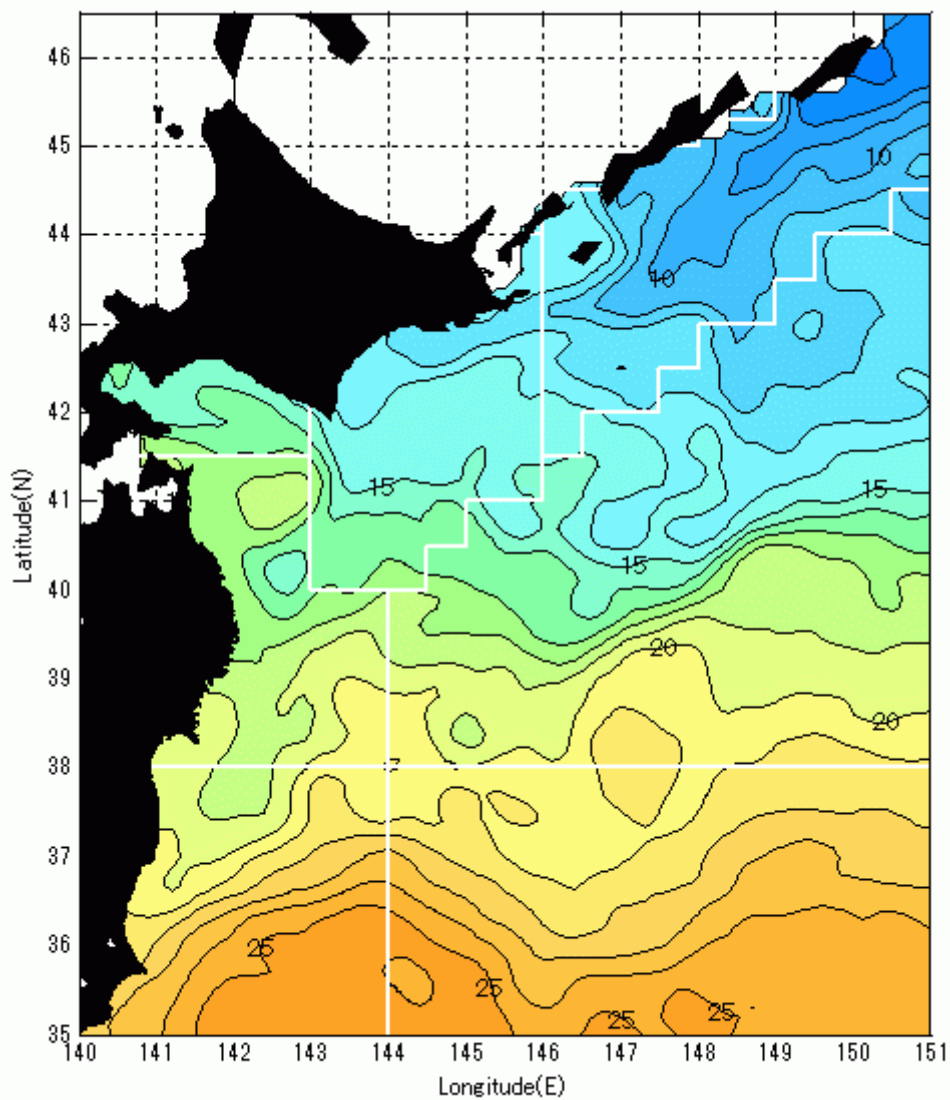
2017年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が行った中層トロールを使った漁獲調査の結果では、1区（東経143°～東経162°）の資源量は、重量ベースで23.4万トンであり、前年（9.6万トン）より多くなった。一方、本調査結果から推定した2区（東経162°～西経177°）の資源量は、重量ベースで36万トンであり、前年（112.3万）の3割程度である。本調査結果から推定した東経143°～西経177°（1区と2区）における推定資源量は、重量ベース59.5万トンで前年（121.9万トン）の5割程度であった。8月中旬～9月中旬までの水揚量の動向を見ると、今年は8月下旬までは前年よりも多かったものの、9月上旬～中旬は前年を下回った。これらのことから、常磐海域の来遊量は前年を下回る低位水準となる。

予測水温分布図では、常磐海域は前年よりも水温が低く、例年漁場が形成される18℃台は10月中旬になると常磐海域の一部に出現し、常磐海域に広がるのは10月下旬以降である。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、前年（11月上旬）よりやや早い10月下旬になる。

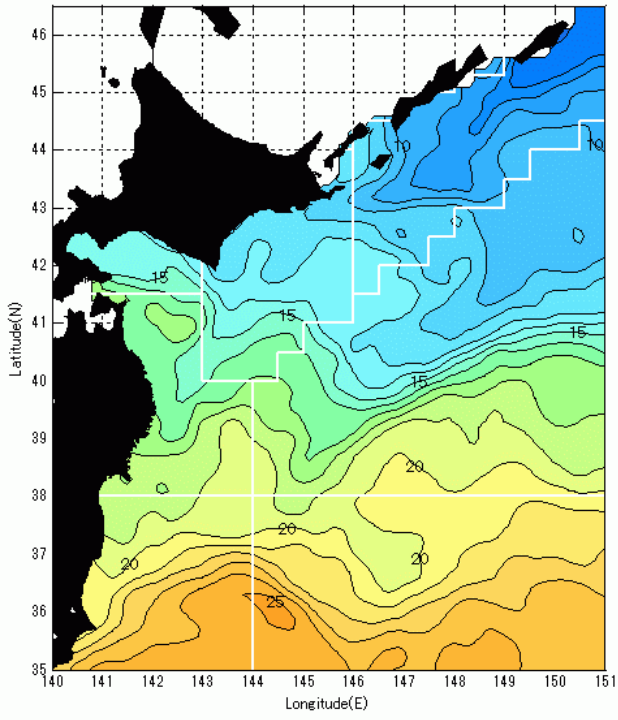
なお、東北区水産研究所の漁期前調査結果では、東経143°～西経177°（1区と2区）における1歳魚の割合は、前年よりも低かった。前年の常磐海域における魚体は1歳魚の割合が低く、今年も前年に引き続き1歳魚の割合が低く推移する。

5. 予測水温分布図

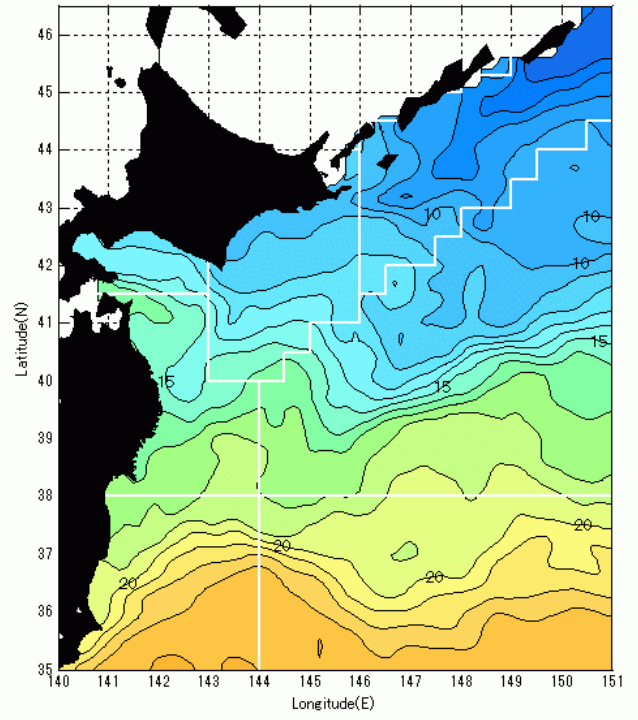
10月上旬予測表面水温分布図



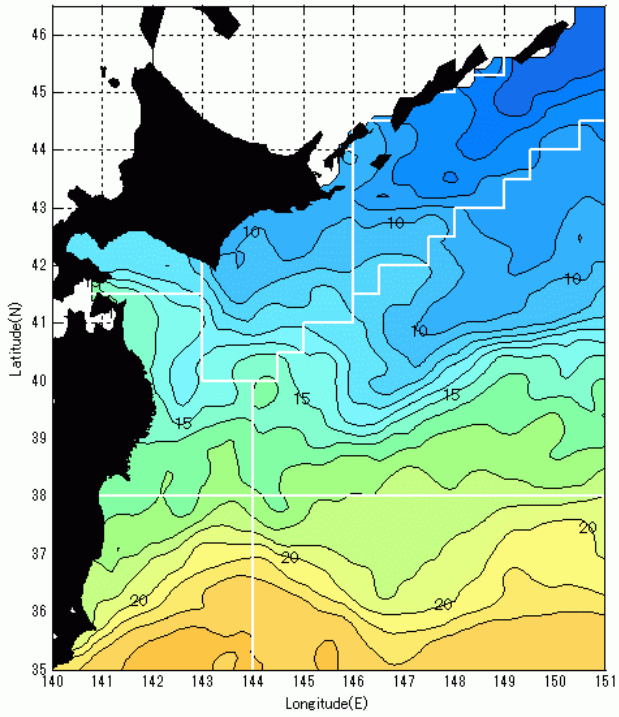
10月中旬予測表面水温分布図



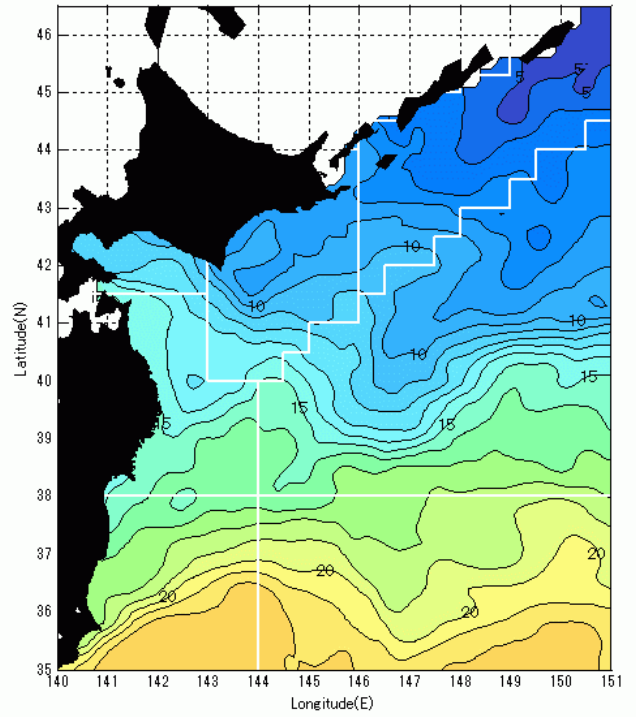
10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--